

教育研究業績書

令和 5 年 3 月 31 日

氏名 重村 幹夫

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1) 画塾彰技堂の講義録 『布置経営』と画学類 纂『絵事三要－布置 法』との関係について －英語原書を元にし た比較による－ (研究紀要)	単著	平成 26 年 3 月	仁愛女子短期大学研 究紀要第 46 号、仁愛 女子短期大学 (53～62 頁)	「布置経営」及び「絵事三要－布置 法」は、油画解説書であり、画塾彰技 堂主、本多錦吉郎による同一英語原 書からの翻訳である。「布置経営」の 7 年後に「絵事三要－布置法」が出版 された。原書を基準に 2 つの翻訳の 関係を調べることで、彰技堂の学習 環境や、油画受容事情の参考になる のではないかと考えた。その結果、先 行研究の通り全く違い関連が無いこ とが確認された。また、「布置経営」 には、彰技堂での学習のあり方を考 える上で興味深い、原書には無い塾 生による追加記述が多くあった。こ れらは、原書の内容を咀嚼理解する 上で有益であるだけでなく、発展的 な記述であると考えられる。
2) 画塾彰技堂の講義録 『画図中ノ明暗』と英 語原書の比較につい て(査読付)	単著	平成 28 年 3 月	美術教育学研究第 48 号、大学美術教育学会 (217-224 頁)	画塾彰技堂の講義録『画図中ノ明暗』 は、本多錦吉郎が、John Burnet の原 書を彰技堂で訳述講義したものであ る。本考察では、原書を基準に『画図 中ノ明暗』の翻訳の傾向を調べた。そ の結果、明治初年の段階では、原書 の引用作品の実物を参考にすることが できず、参考図版も不鮮明な場合 もあり、本多にとって翻訳が困難 で、間違えたり省略したりした部分 も見られた。しかし、全体としては Burnet の意図をよく汲み取った翻訳 であると言える。油画技法の翻訳に 対しても深い理解が見られた。そし て、本多の翻訳には洋画理論の理解 にとどまらず、英語概念を日本語に 取り入れていきたいという思いが感 じられた。また、必要に応じ洋画理論 と直接関係のない内容の省略を行 い、追加記述をして、画塾の講義資料 として塾生の理解を助けるための配 慮がなされていた。

3) 保育者養成課程における造形教育実践についての一考察 - 保育環境に必要な造形の基礎技能の習得を中心に - (研究紀要)	単著	平成 29 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 49 号、仁愛女子短期大学(59～67 頁)	保育者養成課程における造形教育実践について考察した。本考察は、幼児への援助のための「設定遊び」の中の「造形表現」内容を主に記したものではなく、筆者がこれまで行ってきた、保育者として求められる保育環境に必要な造形上の基礎技能の習得の実践について記したものである。内容は、デッサン、色彩理論の基礎。抽象絵画、ダンボールの工作に大別され、それぞれの基礎技能習得の意義と、その実践についての考察を行なった。
4) 0～2 歳児の造形表現活動とその教育的意義について	単著	平成 30 年 3 月	福井県内保育者対象アンケート 調査報告書	仁愛女子短期大学共同研究調査報告書。3 歳以下の子どもでは、自己の物への関わりの行為と結果を確かめる触覚的探索活動が見られ、4～5 歳児には、目的をもった知的探索活動が主に見られるが、実際の幼児の活動は、触覚的探索活動と知的探索活動が複雑に関わっている。 (pp. 77-79) 共著者：増田翼、内田雄、江端佳代、山下清美、木下由香、重村幹夫、乙部貴幸、中尾繁史、野本尚美、田中洋一、前田敬子、香月拓、後久真嗣、賞雅さや子、松川恵子
5) 児造形活動における「見立て」に関する一考察(研究紀要)	単著	平成 30 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 50 号、仁愛女子短期大学(pp. 69-76)	研究紀要。「見立て」は、言葉の発達や経験によるイメージの蓄積と関係があり、その重要性は明らかである。幼児にとって、五感を使った探索活動を伴う活動の中で喚起される「見立て」と「仕立て」との複合的な往還の過程で、新たに作り直されるイメージが、「新しい意味生成」としての創造行為であると考えられる。
6) “John Burnet , Practical hints on light and shade in painting, 1829” の翻訳について	単著	平成 31 年 4 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 51 号、仁愛女子短期大学(pp. 71-90)	研究ノート(研究紀要)。 “John Burnet, Practical hints on light and shade in painting, 1829” を翻訳し、その全文を掲載した。また、原書の図版は、不鮮明であるので、特定できたものは、鮮明な図版に差し替えた。また、参考図版を追加した。
7) “John Burnet, Practical hints on colour in painting, 1830” の翻訳について	単著	令和 2 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 52 号、仁愛女子短期大学(pp. 91-126)	研究ノート(研究紀要)。 “John Burnet, Practical hints on colour in painting, 1830” を翻訳し、その全文を掲載した。また、原書の図版は、不鮮明であるので、特定できたものは、鮮明な図版に差し替えた。また、参考図版を追加した。
8) コロナ禍における実技・演習系の面接授業について	単著	令和 3 年 3 月	2020 年度ブランディング事業『報告書』保育者養成のこれから～キャリア・ルーブリックの作成とコロナ禍における養成の	コロナ禍における造形の面接授業設定の実践報告。

9) “Aaron Penley, <i>SKETCHING FROM NATURE IN WATER COLOURS, 1870</i> ” の翻訳について	単著	令和 3 年 3 月	在り方～ 仁愛女子短期大学研究紀要第 53 号、仁愛女子短期大学 (pp. 71-98)	研究ノート(研究紀要)。 “ Aaron Penley, <i>SKETCHING FROM NATURE IN WATER COLOURS, 1870</i> ” を翻訳し、その全文を掲載した。内容は風景水彩スケッチの技法、技術の解説であり、風景スケッチを描くうえで有意義である。
10) 画塾「彰技堂」の講義録「水彩寫景指南」と英語原書の比較について -技法・材料の観点から-	単著	令和 4 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 55 号、仁愛女子短期大学 (pp. -)	研究紀要。筆者は、これまで明治初年の油画受容や技法・材料事情を考察してきた。ここでは、「水彩寫景指南」と英語原書の比較を行い、その翻訳の傾向からこれまでと同様に考察した。その結果、明治 17 年(1884)2 月より前の画塾「彰技堂」主、本多及びその翻訳の読者、塾生周辺の油画・技法材料環境は、筆者がこれまで考察してきたように、その理解は進みつつあったが、必ずしも容易に入手できない状況が続いていたと考えられる。
(その他) 〈作品制作〉 1) 変容Ⅰ	単著	平成 24 年 6 月	2012 北陸二紀展、金沢県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。 オールオーバーに近い構図を用いて、中央に大きな量を描いた作品。
2) 変容Ⅱ	単著	平成 24 年 10 月	第 66 回二紀展、国立新美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 縦構図で、中央に左右対称の大きな量を描き、神聖な感じが出るようにした。
3) 変容	単著	平成 25 年 2 月 28 日～3 月 6 日	第 3 回 UNI 展 - 8 人の視座 -、ギャラリー絵夢	画廊企画。 F100 号(162.0×130.3cm)、混合技法、パネル。 全体をオールオーバーに近い平面的な構図とした。中心に渦のような形を描き、幻惑するような表現とした。
4) 「変容Ⅲ」	単著	平成 25 年 3 月 10 日～3 月 17 日 5 月 14 日～5 月 19 日	第 11 回春季二紀展、東京都美術館 2013 年春の北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 中央下部に円形を置き、周囲に拡散するムーブマンを与えた作品。
5) 「変容Ⅰ」	単著	平成 25 年 10 月 16 日～10 月 28 日	第 67 回二紀展、国立新美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 祭壇の形状を中央に描き、左右に垂直の形体をシンメトリーに加えた。
6) 「変容Ⅱ」	単著	平成 26 年 8 月 5 日～8 月 10 日	2014 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。 垂直方向の上昇感を強調して描いた作品。

7) 「変容Ⅰ」	单著	平成 26 年 10 月 15 日～27 日	第 68 回二紀展、国立 新美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。 オールオーバーに近い構図を用いた 作品。無作為に置いた絵の具から、環 状の形体を描き出した。
8) 「変容Ⅰ」	单著	平成 27 年 8 月 4 日～9 日	2015 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。 オールオーバーに近い構図から、球 状の形体を描き出した。
9) 「変容Ⅱ」	单著	平成 27 年 10 月 14 日～26 日	第 69 回二紀展、国立 新美術館	F130 号(194.0×162.0cm) 、混合技 法、パネル。 オールオーバーに近い構図にストロ ークを用いた作品。
10) 「森Ⅰ」	单著	平成 28 年 8 月 9 日～13 日	2016 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F120 号((112.0×194.0 cm)、鉛筆、 パネル 池田町の森林風景を描いた作品。
11) 「森Ⅱ」	单著	平成 28 年 10 月	第 70 回二紀展、国立 新美術館	F120 号((112.0×194.0)、鉛筆、パネ ル 池田町の森林風景を描いた作品。
12) 「森」	单著	平成 29 年 8 月 平成 29 年 10 月	2017 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館 第 70 回二紀展、国立 新美術館	F130 号(194.0×162.0 cm) 鉛筆、パ ネル。 池田町の森林風景を描いた作品。
13) 「森Ⅰ」	单著	平成 30 年 8 月	2018 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。 幻想的な森と人物を組み合わせた作 品。
14) 「森Ⅱ」	单著	平成 30 年 8 月 平成 30 年 10 月	2018 北陸二紀展、金沢 21 世紀美術館 第 71 回二紀展、国立 新美術館	F130 号(194.0×162.0 cm) 鉛筆、パ ネル。 池田町の森林風景と人物を組み合わ せた作品。
15) 「冬の日」	单著	平成 31 年 3 月	第 14 回春季二紀展	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、 パネル。 草の生えた地面を描いた作品。
16) 「池田町の山」	单著	令和元年 7 月	2019 北陸二紀展、石川 県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。池田町の森林風景。
17) 「樹木」	单著	令和元年 10 月	第 72 回二紀展、国立 新美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。河川堤防の櫓を描いた作品。
18) 「池田町の山」	单著	令和 3 年 6 月 令和 3 年 10 月 令和 4 年 4 月	2021 北陸二紀展、石川 県立美術館 第 74 回二紀展、国立 新美術館 第 44 回カカ斜展、福 井県立美術館	F130 号(194.0×162.0cm)、混合技法、 パネル。池田町の森林風景。
19) 「池田町の森」	单著	令和 3 年 6 月	2021 北陸二紀展、石川 県立美術館	F130 号(162.0×194.0cm)、混合技法、 パネル。池田町の森林風景。
20) 「森」	单著	令和 4 年 3 月	第 15 回春季記念二紀 展 東京都美術館	F120 号(194.0×162.0cm)、混合技法、 パネル。幻想的な森林風景。

21)「美山町の杉」	単著	令和4年7月	2021北陸二紀展、石川県立美術館	F130号(162.0×194.0cm)、混合技法、パネル。美山町の森林風景。
22)「九頭竜川」	単著	令和4年10月	第75回二紀展、国立新美術館	F120号(194.0×162.0cm)、混合技法、パネル。幻想的な風景。
(その他) <口頭発表> 1) 画塾彰技堂の講義録『布置経営』と画学類纂『絵事三要－布置法』との関係について－英語原書を元にした比較による－ 2) 画塾彰技堂の講義録『画図中ノ明暗』と英語原書の比較について 3) 幼児造形活動における「見立て」に関する一考察（単独発表）	単独 単独 単独	平成26年10月 平成27年9月 平成30年3月	大学美術教育学会福井大会研究(口頭発表)概要集 p.59 大学美術教育学会横浜大会研究(口頭発表)概要集 p.76 美術科教育学会滋賀大会研究発表概要集 p.74	本発表は、「仁愛女子短期大学研究紀要」,第46号,pp53-62,2014にて執筆発表したものを、再度口頭発表したものである。 本発表は、同一題目の論文を、美術教育学研究第48号(217-224頁)に投稿、掲載する前に口頭発表したものである。 本発表は、「仁愛女子短期大学研究紀要」,第50号,pp69-76,2018にて執筆発表したものを、再度口頭発表したものである。